

研究主題 『『個別最適な学び』の実現を目指した授業づくり』（2年次／3年計画）

令和5年6月2日に令和5年度第52回公開研究会を実施いたしました。県内外から多数のご参加をいただき、来校型、後日オンデマンド型での参加を合わせて、150名を超える方々にご参加いただきました。研究会の内容としては、「研究授業」、「研究概要報告」、「ポスターセッション」、「ワークショップ形式での分科会」「講演会」と1日を通して、本校の取組についてご報告させていただき、参加者の皆様からも貴重な御意見を多数頂戴することができました。今後の研究実践の充実並びに、より多くの学校での実践課題に寄与することを目指し、鋭意、研究実践に励んで参ります。



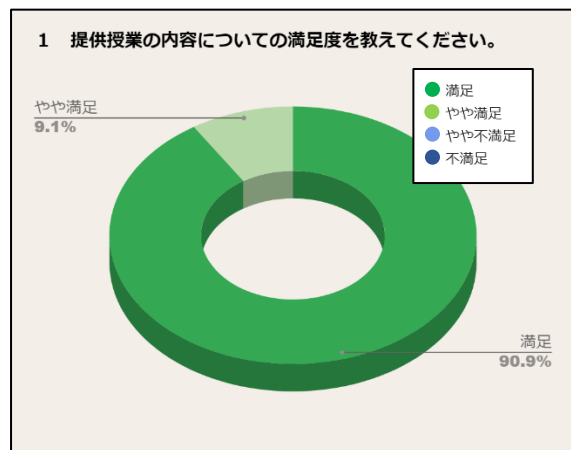
研究授業の様子（小学部）



研究授業の様子（中学部）



研究授業の様子（高等部）

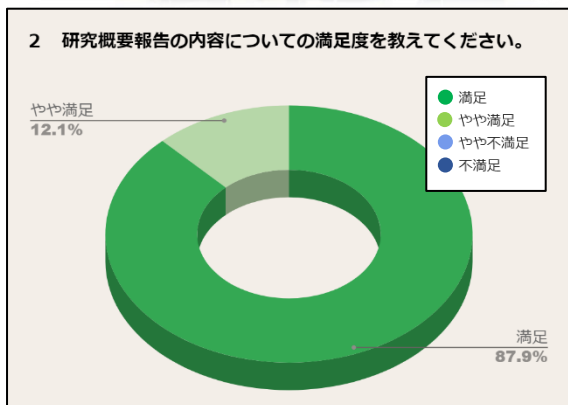


参加者事後アンケート（6月20日途中時点 回答数 33人）

- ・ 個別の学習履歴とGKシートを活用した授業づくりによって、子供たちは生き生きと活動できており、大変素晴らしい授業を参観させていただきました。「児童の実態把握」はしていたつもりでしたが、一人一人の学び方の特性を把握するまでは至っていなかったと反省しました。
- ・ 子供たちの生き生きとした姿がとても印象的でした。拝見した縦割り集団の中に「安心感」の空気が流れていました。この学習環境の良さの根底には、児童同士の関わりの充実と、先生と児童との間の強い信頼関係が深く関わっていると思います。一人一人に合う目標を達成させるために、その子に合った声掛けをすること、その子の役割を全うさせること、意欲が高まるような場設を工夫することなど、教師としての適切な働き掛けを間近で拝見し、勉強させていただきました。

（参加者事後アンケート） 自由記述より一部抜粋

<研究概要報告>

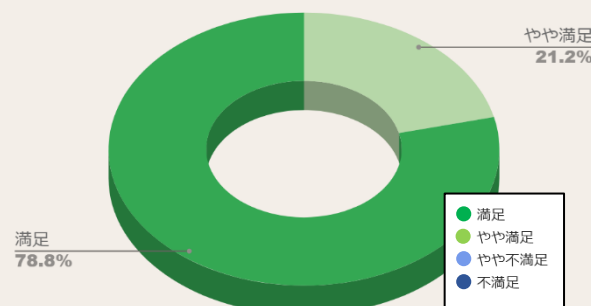


- ・ M-FOCUSやGKシートとICTの活用が効果的にされたことによって、子どもたちの実態把握が丁寧かつ継続的にされているところがとても勉強になりました。指導の個別化と、学習の個性化についてもしっかりと整理して実践がされているところがわかりました。
- ・ 担任の主観ではなく、具体的な根拠に基づいて子供の特性を見取るためのGKシートが素晴らしかった。
- ・ 「学びの自己調整」をすることは、簡単なことではないと感じたが、「経験の拡大」から「自己選択・自己決定」と、段階を踏んで少しずつ取り組めば実現可能であることが分かった。自分で見て、触れて、体験することで、どちらが自分にとってより良いものなのかが分かるのだと再確認できた。
- ・ GKシートを活用した、児童生徒の実態の見取りから評価までの一連の流れと内容を、もっと詳細に知りたいと思いました。
- ・ GKシート等の情報が、M-FOCUSのシステムと連動していて一瞬で全児童生徒の情報にアクセスできるしくみが素晴らしいと思いました。
- ・ 子どもにとっての「ちょうどよさ」という表現に含まれている意味をどのように解釈するかによって研究成果に影響を与えてしまう可能性もあるのだろうと感じました。個別最適がちょうどいい状態だとすると、ちょうどいい学びの環境だけに教員の意識が向いてしまうと、生徒の伸び代を奪いかねない状況もあるかと思いました。授業作りにおいて重要な目標設定や学習方法を検討する際に、貴校のGKシートを手掛かりに取り組むことの有用性を強く感じました。

<ポスターセッション>



3 ポスターセッションの内容についての満足度を教えてください。

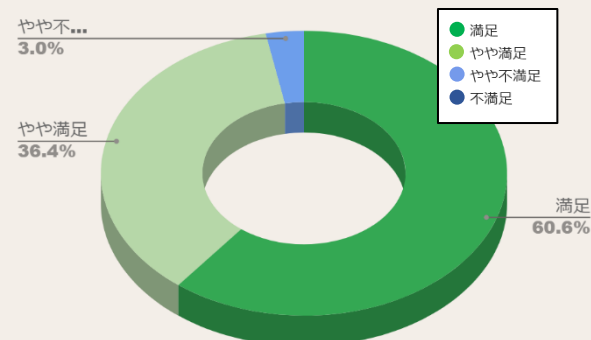


- ・とても良かったです。本校の研究でも取り入れたら有効ではないかと思いました。
- ・貴校で取り組んでいる研究の様子が簡潔にまとめられていて、また聞きたいテーマを選択して聞ける、質問もできる、また「立ち見」が気軽さがあり、良かったです。
- ・個別の指導計画に関して研究の様式をととても分かりやすい丁寧な説明をしてもらって、自校の研究の参考になった。また、ICTの活用方法が本当に素晴らしかった。技術を教えていただきたいと思った。
- ・もう1箇所ほど回れたらありがたかったです。

<分科会>



4 分科会の内容についての満足度を教えてください。



- ・グループワークがとても良かったです。少人数設定だったこともあり、授業を見ての気付きや、勤務校で課題を感じている部分を具体的に話し合うことができました。
- ・特別支援教育に携わるのが初めてで、ワークショップ型で、諸先輩方の生の声を伺えたことがとても有意義でした。自分の視点が間違っていないことを確認できたり、一方で自分にはない視点にも気づかされたりと学び多い時間となりました。
- ・より多くの方の意見を聞き、意見交換できたら、さらに深まったかと思いました。また、授業者の方にも還元できるところが多いかと思います。



<講演会> 「知的障害特別支援教育における『個別最適な学び』を考える」

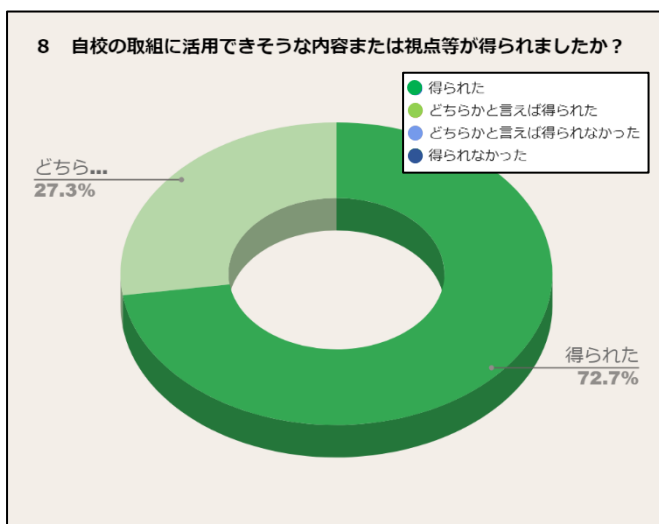
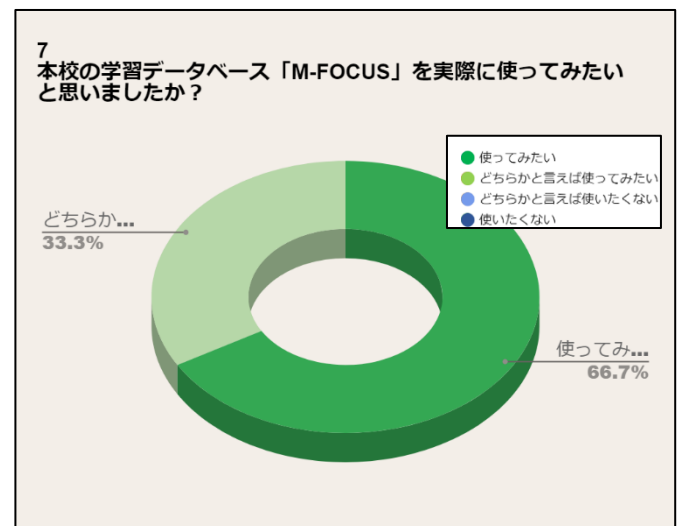
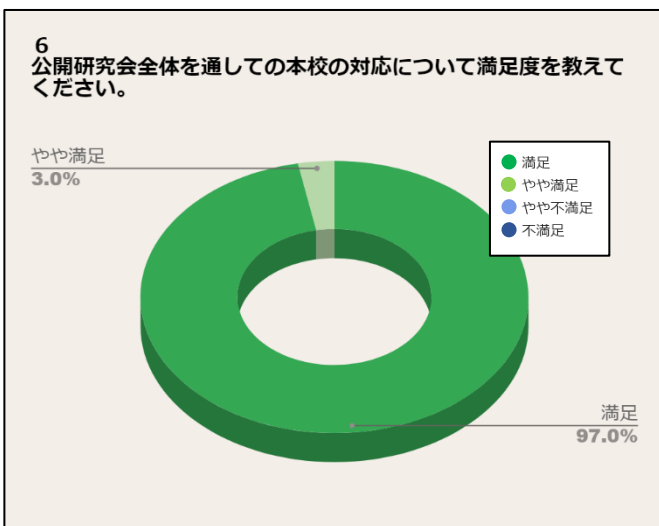
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 加藤 宏昭 氏

- ・学習指導要領について、理解を深めることにつながりました。附属の取り組みとリンクした説明だったので、公開研究会の最後にまとめとして聞いたのが良かったです。
- ・専門的な内容を、その経緯や考え方の視点など、分かりやすく教えていただきました。「資質・能力を育成するための個別最適な学びである」という基本的な考え方を理解することができました。

<その他、今回の公開研究会全体を通して感じたことなど>

- ・やはり宮城教育大学は先進的な取組を全県に発信してくださるアンテナとなる学校であることを痛感しました。県内の支援学校で生活単元学習を減らし、教科の学習に個別に取り組む状況が増えているように感じられる中で、知的障害のある子供たちの社会性や自己選択、自己決定を仲間との学習を通して高めようとする指導にほっとする思いも感じました。それぞれの学校の特性もあるのですが、県内のベースがそろい、障害のある児童生徒の学習環境が整備されていくことを願います。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・提案授業を見させていただいて、自分も授業づくり・学級経営をがんばろうと思えました。また、授業内で子どもがなかなか課題に取り組めない時も先生の声掛けにより取り組めている場面を見ました。日頃からの信頼関係が大切だと感じました。提案授業に向けて準備など大変だったかと思いますが、素敵な授業を見せていただき大変勉強になりました。ありがとうございました。

<その他、本校の実践に関するアンケート結果>



この他にも非常に多くのご意見を頂戴いたしました。今後の実践の励みとなる、温かな励ましの言葉から、今後の実践の改善に向けて参考となる、率直な御意見まで、たくさんのご回答をいただきました。アンケートへのご協力ならびに公開研究会にご参加いただき、誠にありがとうございました。